

あさがお



花言葉:「愛情の絆」「堅い結束」

特集

| 下田メディカルセンター 眼科 |

「前年の自分を超える」躍進する眼科チーム 白内障手術で地域の期待に応えたい

AREA
TOPIC

| 下田メディカルセンター | 視能訓練科～視能訓練士のご紹介～



『前年の自分を超越する』躍進する眼科チーム 白内障手術で地域の期待に応えたい



下田メディカルセンターの眼科は、賀茂医療圏において唯一白内障手術、そして硝子体手術を行っています。
地域の医療に貢献したい、その熱い思いをお二人に語っていただきました。

**2017年、東京の病院からお二人が
常勤医として赴任されました。
当時を振り返っていかがですか？**

片井 私が来る以前、10数年の間、この賀茂医療圏において白内障手術が受けられないという状況でした。2015年に下田メディカルセンターで非常勤医師として白内障手術を開始し、その4年後、堀田医師と共に常勤医2名体制となりました。現在は硝子体手術を含め月70〜100件ほどの眼科手術を行っています。都会では当たり前にできる治療ができない、何時間もかけて通院しないといけない。都会の人には考えられないことでしょう。地域医療のこの現状を救いたい、より必要とされる医療を提供したいという想いから、この下田メディカルセンターに赴任しました。

堀田 街を歩くと「先生」と気軽に声をかけてもらえることがとても嬉しい。一つの地域を自にする、幸福を追究する仕事があると思います。眼科は診療科の中でも少し特殊で、もちろん医療なので問題解決の要素がありますが、同時に見える喜びを追究する要素もある。二つの側面を同時に解決することができます。目が見えなくなることが、人によっては命を失うことよりも重いと感じる人もいます。その手助けができればと思っています。

片井 目が見えないのはつらいですよ。人間が喜怒哀楽を感じる、美しいと感じたり、悲しくて涙を流したり。目を失うことでそれがなくなってしまう。目を通して生きる希望を持つことに、学生のころから興味があったんです。

堀田 片井先生の手術は日本でも有名です。学会に行くと「片井直達」のオペビデオが流れている。オペ室でそういう方の隣に座ってられるだけでも、こんなに光栄なことはないなあ、いつも思います。

片井 よく言うよなあ。オペ中に堀田先生を注意すると、あとで患者さんに、「あんまり堀田先生を叱らないでよ」と言われるんです。目の手術中、耳は聞こえているから。私が患者さんに叱られていますよ。

分が任されている、という使命感と地域の期待に応えたいという想いがあります。賀茂医療圏の高齢化率は40パーセント。ここは将来の日本全体の姿、将来の医療のロールモデルにならなければなりません。そのような日本の未来を先取りしているともいえる地域で、片井先生のもとで勉強して自分ごとのように成長できるのかやってみたくて思いました。下田に来ることがとても楽しみでした。

片井 下田はとてもいいところ。私は長野県生まれ育って、海のある景色にあこがれていたこともあって。もちろん海はきれいだし、東京の自宅から電車に乗ってだんだん海が見えてくる、そんな風景に自分の求めていたものがここにあって、と日々感じています。

当時、立ち上げの苦労などはありましたか？オペ室を拝見させていただいて、スタッフの方たちのチームワークは和気あいあいとしていて、とてもいいように感じましたが？



この先の目標や自身が理想とする医師像、というものはありますか？

片井 ここまで、と目標を決めてしまつたら、到達した時点で終わってしまう。常に進み続けて、最終的にたどり着いたところが理想の自分かな。医者として自分ができることは、病気を治すこと。毎日努力して、自分を成長させて、またそれを次の医療に活かしてゆく。最後に結果が残るだけ。努力を続けられない限りはいい医者にはなれない、と堀田先生にもいつも言っているんです。

堀田 今、地域から下田メディカルセンターの眼科を高く評価していただいています。周囲から期待されていることだけでも誇りに思えますし、これからも引き続きその期待に応えていきたいと思っています。数年前まで、この地域ではアクセスできなかった眼科の医療。でも今は違います。これを存続させて、これからさらに飛躍させていきたいです。



眼科部長
片井 直達
Naomichi Katai
1989年信州大学卒業
日本眼科学会専門医。眼科PDT認定医。



堀田 陽介
Yosuke Hotta
2014年慶應義塾大学卒業



片井 最善の医療を構築するためには、スタッフみんなの力が必要です。みんなが患者さんのためになるよう常に心掛けて、連携しています。私は、これまでいた都内の病院でも新しい医療、新しい手術ができる施設をいくつも立ち上げてきました。そのノウハウと経験を活かして、今回もみんなで作り上げました。私はその補助をしただけです。

堀田 眼科の手術に関して、私は、片井先生がスタッフ教育、機材の導入など一から手作りで作り上げてきたと思っています。ベースを作り上げた片井先生のおかげで、今これだけの手術件数の受け入れ実績を出せている。毎年片井先生が、前年の自分を超越え、と言って必ず結果を出してきました。それがこの3年というところでしょうか。

白内障のオペ件数はいぶん増加しましたね

片井 年間の入院オペ件数、静岡県内で何番だったか？

堀田 2番です。2番まで躍進しました(笑)。片井 様々な種類の白内障手術、難しい症例も受け入れていきます。また、おそらく患者数は多くないと思われれますが、硝子体手術も私の専門です。本格的に導入しています。堀田医師は眼瞼のオペ、レーザー治療の専門です。ご紹介は当院の連携室にご相談いただければ、スタッフが受診の調整をさせていただきます。

眼科医を目指したきっかけは？

堀田 例えば、困っている人を助ける問題解決型の仕事と、芸術や音楽のように人を幸せ



患者様のご紹介につきましては、地域医療連携室までご連絡ください。

下田メディカルセンター 地域医療連携室 TEL 0558-25-3535(直通) 静岡県下田市6-4-10

急性脳卒中に24時間体制で対応 脳疾患治療の基幹病院として地域を支える



東埼玉総合病院は、2018年1月からスタートした「埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク(SSN)」の基幹病院に選定されました。一刻を争う急性期において迅速に患者さんを受け入れ、行政との連携システムを駆使することで今後の改善に貢献しています。

脳卒中を取り巻く社会環境

今日における急性期の脳卒中治療は、専門的な治療ができる病院にいち早く患者さんを搬送させるのが、重要なトピックスになっています。脳梗塞の場合、発症から再開通までの時間が1時間遅れれば、社会復帰率が12%落ちるといわれています。発症からすぐに血管内治療ができる病院に運ぶことが、予後に大きく関わります。そこで2016年に、日本脳卒中学会・日本循環器学会が共同で「脳卒中と循環器病克服5カ年計画」を発表し、その一環として脳卒中治療の基幹となる病院が選定されました。当院は日本脳卒中学会認定の一次脳卒中センター(PPSC)として、埼玉県東部エリアにおける脳卒中治療の中核病院に位置づけられています。

世界初となる救急搬送システム

埼玉県では、2018年1月から「埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク(SSN)」の運用を開始しました。SSNとは、脳卒中治療に特化した病院に患者さんを早く搬送するためのシステムで、行政と消防、医療機関がタッグを組んで導入しました。これは世界でも初めての取り組みです。当院はSSNが選定した県内40の基幹病院の一つですが、東部エリアの北側には基幹病院が3病院しかないため、果たす役割は大きいと考えています。

脳梗塞の治療では、発症から4.5時間以内であればアルテプラゼ(r-t-PA)療法を行い、24時間以内であれば血管内治療を行います。当院はSSNの基幹病院として、どちらも対応しています。アルテプラゼ療法は太い血管では再開通率が低いのですが、血管内から行う血栓回収術ではそうした太い血管で強みを発揮します。

SSNでの確な搬送が可能に

SSNの画期的な点は、例えば端末にデータを入力すると、その時間帯にすでに手術中で救急搬送の受け入れができない病院は画面に「X」が、受け入れ可能な病院は「O」が表示されることです。これにより救急隊はその情報を見ながら、受け入れ可能な最も近い病院に短時間で搬送できるようになりました。病院探しのタイムロスがなくなり、導入前の2016年と比較し2018年では県内血管内治療件数は195件から515件に、また人口10万人当たりの治療件数も2.6人から7.09人まで増えるなど、明らかにSSN導入の効果が出ています。

また、情報収集の時間短縮のため利根保健医療圏の地域医療ネットワークシステム「とねつと」を活用して患者さんの持病など診療情報を共有し、迅速な対応を心がけています。急性期治療を終えた患者さんは「埼玉県脳卒中地域連携パス」を活用し回復期リハビリテーション病院などに繋いでいくなど、速やかな連携に努めています。

いざという時に頼られる存在へ

当院の脳神経外科では、6床の脳卒中ケアユニット(SCU)で集中治療を提供しています。常勤医2人に加えて、東京女子医科大学や日本医科大学からも医師を派遣してもらい、24時間365日体制で患者さんを受け入れています。今から25年以上前、私が赴任したばかりの頃は、まだそうした体制は整っていませんでしたが、病院に隣接するアパートに住み、当直を担当す

予防のための治療にも尽力

私たちが扱う手術の多くは脳血管障害で、年間200例近い手術を実施しています。脳腫瘍に関しては、良性腫瘍であれば当院で処置を行い、悪性腫瘍であれば放射線治療や化学療法が必要になるため、連携する大学病院にご紹介しています。

また、くも膜下出血を防ぐ未破裂動脈瘤の手術や、脳梗塞を防ぐ頸動脈内膜剥離術、血管内からアプローチするステント留置術など、予防的な治療にも取り組んでいます。血管内治療に関しては大学病院から専門医に来てもらい、当院で治療できる体制を敷いているのが特徴です。私が最も大切にしているのは、患者さんの立場に立った医療を実践すること。事前にリスクを含めてしっかりと説明し、納得した上で治療を受けていただくようにしています。

脳の働きに関心があり脳神経外科へ

私が脳神経外科を専門に選んだのは、もともととコンピュータに興味があったことが理由の一つです。人間の組織の中で一番コンピュータに近いのは脳だからです。脳外科の手術は

難しいけれど、成功すれば患者さんを助けられる。それが醍醐味であり、今でも難しいオベガうまくいったとき、それによって患者さんが元気に帰っていく姿を見られたときは、医師としてやりがいを感じます。

オン・オフの切り替えには、テニスやゴルフなどで体を動かすようにしています。普段の診療とはまったく違う場所です。前は、「医龍」というテレビドラマで、脳外科の手術シーンの監修をしたことがあります。撮影現場で俳優さんたちにアドバイスをしたことも楽しい経験でした。

お困りのときは気軽に相談を

急性期の脳卒中治療は時間との勝負ですので、クリニックの先生方が診て、少しでも疑いがあればためらわずに患者さんを送ってください。脳卒中でなければ「良かったね」で済みますが、もし脳卒中で搬送が遅れてしまった場合は取り返しがつきません。ぜひ遠慮なく相談いただければと思います。治療までの時間によって回復には大きく差が出ますので、「ACT・FAST」のスコアゲンのもと、顔の麻痺(Face)、腕の麻痺(Arm)、言葉の障害(Speech)などの症状があれば、すぐに救急受診するよううに呼びかけています。



外科系診療部長・脳神経外科科長
岩田 幸也 Yukiya Iwata
1982年に三重大学医学部卒業後、東京女子医科大学脳神経外科に入学。てんかんや難治性疼痛、不随意運動などの研究に携わる。1993年から東埼玉総合病院に勤務。脳血管障害の治療で豊富な実績を誇る。日本脳神経外科学会専門医。三学会承認脳血栓回収療法実施医。てんかんをはじめとする機能的疾患の治療についても相談に応じている。



患者様のご紹介につきましては、地域連携課までご連絡ください。

東埼玉総合病院 地域連携課 TEL 0480-40-1318(直通) 埼玉県幸手市吉野517-5

消化器関連の幅広い医療ニーズに応え 地域密着の高度医療を実践する



海老名総合病院の消化器内科では、上部・下部消化管の一般的な内視鏡検査、EUS、ERCP、早期がんに対するESDなど高度な内視鏡検査・治療をカバーし、地域のクリニックや病院の先生方からご紹介いただいた患者さんの診療にあたっています。

高度な内視鏡検査・治療を提供

当院は神奈川県東部の県央医療圏で唯一の救命救急センターを持ち、「地域密着高度急性期病院」になることを目標に掲げています。消化器内科においては消化管、肝胆膵と広い領域を扱う中で、全体として大学病院と同等の医療を提供できる体制を整えました。

当科では私が得意とするERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）による胆管や膵管の検査・治療をはじめ、ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）、EUS（超音波内視鏡検査）、EUS・FNA（超音波内視鏡下穿刺吸引）といった先進的な技術を積極的に導入しています。内視鏡による検査・治療も年々増えており、2019年1月から12月で約7400件となりました。

また、当科は「患者さんをお断りしない」をモットーとし、特に紹介状をお持ちの方には迅速な対応を心がけております。おかげさ

で、地域のクリニックの先生方、二次医療圏内の病院の先生方から多くの患者さんをご紹介いただきたいへんありがたいと思っております。

ESDで大きな病変も一括切除

内視鏡は急速に進化し、現在は検査だけでなく治療にも幅広く使われています。内視鏡治療の最大のメリットは、開腹手術に比べて患者さんの体への負担が少ないこと。術後の回復期間が短く済むため早期の社会復帰が可能で、治療費の軽減にもつながります。

例えば、早期の胃がんや大腸がんを内視鏡で切除する手技は、スネアを用いて粘膜層を切除するEMR（粘膜切除術）だけでなく、電気メスで病変を切除するESDが多く行われています。ESDは5cmを超えるような大きな病変も一括して切除が可能です。当科でも早くからESDを行っており、大学病院の准教授を招いて技術的バックアップを受けるなど、まさに大学病院レベルの治療を実現しています。

消化管外の臓器の超音波検査も

EUSは先端に超音波検査装置を装着した内視鏡を使うことで、消化管の外にあるさまざまな臓器、例えば膵臓、胆道のほか、リンパ節、消化管粘膜下腫瘍などの詳細な観察を行います。これに応用し、超音波で病変を確認しながら検体を採取するEUS・FNAによって、従来は採取が難しかった部位の細胞診も可能になりました。早期の的確な診断をサポートするEUSは、効果的な治療法の選択に大いに役立っています。

一方ERCPは、内視鏡の先端から膵管・胆管にカテーテルを挿入し造影検査を行う手技で、現在は膵管・胆管の結石除去、狭窄に対するステント治療など、治療にも活用されています。私はERCPに関してトップクラスの技術力を持つ先生に師事し、こうした手技を身につけました。その経験を地域の患者さんに少しでも還元すべく、日々診療しています。

抗がん剤の適切な選択を支援

もちろんがんの治療は内視鏡治療だけではなくありません。当院では、がんの化学療法にも力を入れており、当科にも抗がん剤治療に関するスペシャリティーを高めている医師がいます。抗がん剤の種類はここ10年ほどで飛躍的に増え、治療の幅が広がった反面、適切に使用しなければ期待した効果が得られないことがあります。また、がんの種類や進行度によって効果のある抗がん剤も異なるため、前述したEUS・FNAなどによる病理診断は、今後さらに重要性を増すでしょう。

めざすのは楽しい消化器内科

当科で外来を担当するのは、私のほかに若手3人、中堅3人の計7人の医師ですが、若手の内視鏡の手技は指導医が丁寧に教え、各自めざましい成長を見せています。全員がやる気に満ち、非常に良い雰囲気です。患者さんをお迎えできているのではないのでしょうか。

私は当科を「日本一楽しい消化器内科」にしたいと考えています。決して気を抜くということではなく、病気の治療にやりがいを感じて集まったスタッフが高いモチベーションで仕事をしたいれば、自ずと楽しい雰囲気生まれると信じているのです。もちろんそれぞれ大変なときもあるとは思いますが、うまくフォローし合い、お互いに成長できるような職場環境を整えたいと考えています。

地域の中で顔の見える関係に

当院に患者さんをご紹介いただく窓口は患者サポートセンターですが、私も可能なときはセンターのスタッフと同行し、地域のクリニックの先生方のもとへ挨拶に回っています。その際に内視鏡治療についてご相談を受けることや貴重なご意見を頂戴することもあります。それらは持ち帰って、診療に反映できるように努めています。

残念ながら最近新型コロナウイルスの影響で訪問が困難ではありますが、地域の先生方との「顔の見える関係」はやはり診療に厚みを与えます。状況が落ち着けば若手医師が同行する機会をつくるなど、当科全体で地域への想いをさらに養っていくつもりです。

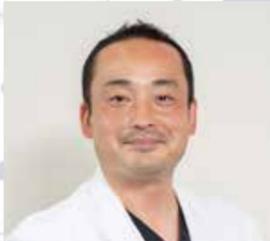
幅広さと専門性の両方を磨く

消化器内科で診る部位は、口から食道、胃、十二指腸を含む小腸、大腸までの消化管全般、肝臓、胆道、膵臓など多岐にわたります。この広い分野を満遍なく診療できる体制を整えることは、地域の皆さんに対する責任だと私たちは捉えています。そして急性期医療に必要とされる高度な専門性を身につけるため、今後は大学病院やがん専門病院の教育を取り入れるようなことも必要だと考えています。若手・中堅の医師はもちろん、私自身も常に研鑽を積み、地域のクリニックの先生方、病院の先生方に「海老名総合病院に紹介して良かった」と思っていただけけるよう、患者さんに満足していただける医療を提供してまいります。

ウィズコロナを考慮した体制

新型コロナウイルスの感染拡大により、一時は当院も患者さんの受診控えが見られましたが、現在は以前と同程度にまで戻っています。当科では「ウィズコロナを前提に安全で適切な医療を提供するため、日本消化器内視鏡学会から出された消化器内視鏡診療についての提言と、当院で定めた感染対策のルールに沿って診療を行っています。これまでどおり、安心して患者さんをご紹介いただければと思います。

患者様のご紹介につきましては、患者サポートセンターまでご連絡ください。
海老名総合病院 患者サポートセンター TEL 046-234-6719(直通) 神奈川県海老名市河原口1320



消化器内科部長
稲瀬 誠実 Masami Inase

2006年獨協医科大学卒業。亀田総合病院勤務を経て、2013年に海老名総合病院に入職。2020年より現職。日本消化器病学会消化器内視鏡専門医、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医、日本消化管学会胃腸科専門医・指導医。日本内科学会総合内科専門医・指導医。



良性疾患から悪性腫瘍の手術まで 幅広く手がける外科診療

座間総合病院の外科は2019年10月に常勤医を配置して以来、地域のニーズに
応えて診療の幅を広げてきました。海老名総合病院との緊密な連携を強みに、き
め細かい診療を提供しています。

地域で完結する医療をめざして

開院当初、当院の外科は、同じ法人の海老名
総合病院を補完する役割を担っていましたが、
地域の皆さまや近隣のクリニックの先生方か
らのニーズに応える形で、診療の幅を広げてき
ました。4年がたった現在では、これまでの良
性疾患の治療に加えて悪性疾患の手術にも対
応できる体制を築いています。私たちがしっか
りとした手術治療を提供することで、患者さ
んがわざわざ遠くの病院に行かずとも、この地
で治療を完結できるようになります。昨年度
は月平均24件だった手術件数は、今年に入って
多い時には35件に増加しました。これは必要と
される患者さんが多かったことの表れであり、
今後さらさらに増えていくと予想されます。

もともと良性疾患に力を入れていたことも
あり、当院では胆のう炎、胆石症、ヘルニア、虫
垂炎などの良性疾患を多く扱っています。良
性疾患の手術はほとんどが腹腔鏡を使い、悪
性疾患に関しても多くは腹腔鏡下で行って



外科部長
萩原 英之
Hideyuki Hagiwara

1990年山梨医科大学(現・山梨
大学医学部)卒業。2004年から
海老名総合病院に勤務し、2019
年10月から現職。日本外科学会
外科専門医・指導医。日本消化器
外科学会消化器外科専門医・指
導医。日本消化器病学会消化器
病専門医・指導医。

ます。特に高齢の患者さんに対しては術後の
肺炎や感染症のリスクを抑えると同時に、長
期に寝ていることでの廃用症候群を防ぐなど
のメリットがあるため、積極的に採用してい
ます。

より専門的な治療や、合併症などで他科の
診療を必要とされる場合は、海老名総合病院
にスムーズにご紹介します。私も週1日は海
老名総合病院で外科の外来診療を行っていま
すし、普段からチャットツールを使って両病
院の医師たちが連絡を取り合うなど緊密に連
携していますので、安心してお任せください。

幅広い診療で頼られる病院に

当院には消化器内科はありませんが、私が
消化器病学会の専門医資格を取得しています
ので、外科だけではなく内科の分野もカバー
しながら消化器疾患の診療を行っています。
消化器系のがんでは、かなり症状が進行して
からいらつしやる方が多いのですが、早めに見
つけることができれば、最小限の手術で治療
が可能です。ぜひ早期発見・早期治療に協力
ください。また、日中の救急診療に対応するほ
か、中学生以上であれば緊急の虫垂炎の手術
などもお引き受けできる体制を整えていま
す。お困りのことがあれば気軽にご連絡いた
だければと思います。

外科医の技術で患者を救う

私が外科を専門に選んだのは、大学時代に
所属していた剣道部の先輩の多くが外科に進
んだことが影響しています。外科の魅力は自
分の手で、技術で、患者さんを治せること。努
力して技術を磨けば、それが実を結ぶことで
す。手術によって患者さんが良くなる姿を見

この地で暮らし続けられるように 地域包括ケアシステムの構築をめざす

地域医療の中核を担う座間総合病院では、急性期治療を終えた患者さんを受け入
れ、在宅復帰に向けたケアを提供しています。地域のネットワークづくりや多職種
連携の取り組みに特色があります。

多職種で在宅復帰を支える

私たちがこの地域でめざすのは、地域包括
ケアシステムの構築です。たとえ重度の要介護
状態になったとしても、地域の中で安心して暮
らしていけるように、医療と介護のネットワー
クを築くことが重要だと考えています。当院の
地域包括ケア病棟では、近隣の急性期病院か
ら患者さんを引き受け、在宅復帰を見据えた
医療を提供しています。週1回は多職種カン
ファレンスを開き、看護師、医療ソーシャル
ワーカー、栄養士、歯科衛生士、リハビリス
タッフが、それぞれ専門的な視点で患者さん
に関わる連携体制を整えています。

また、医療依存度の高い患者さんにも対応
できるため、例えば私の専門でもある白血球
の患者さんなど、他の病院で受け入れが難しい
疾患でも積極的に引き受けしています。高
齢化に伴い増えている重症心不全の方も多く
受け入れているのが特徴です。さらに、介護者
であるご家族を支えるためのレスパイト入院

にも対応しています。特に医療依存度が高い患
者さんは引き受ける病院が少ないため、お困
りのご家族は多いのではないのでしょうか。ぜひ
ご相談ください。

人の役に立つ医師の仕事

私が医師をめざすと決めたのは高校2年生
の時、仲の良い友達が「医師になる」と言ったこ
とがきっかけでした。人のためになる職業に就
きたいと考えていたので、医師ならばそれが実
現できると思ったのです。私の専門の血液内科
は他の科とは違い、一つの診療科だけで治療が
完結します。そのため患者さんに最初から最
後まで関わるのが魅力ですね。

最近では自分の健康維持にも意識して取り
組んでいます。患者さんに「健康のために歩いて
ください」と言っているのが、私もなるべく歩
くようにしているんです。自宅から病院までは
車で40分くらいですが、電車と徒歩で2時間ほ
どかけて通勤しています。それもあえて歩く区



副院長/患者サポートセンター長
佐藤 浩司
Hiroshi Sato

1989年東海大学医学部卒業。海
老名メディカルプラザ院長を経て、
2017年から現職。血液内科を専
門に内科全般の診療に携わり、地域連
携のネットワークづくりに尽力。
日本内科学会総合内科認定医。

間を決めて、2時間のうち1時
間ほど歩くこともあります。

情報共有に向けた取り組み

私がセンター長を務める患
者サポートセンターでは、患
者さんの入院から退院までの
流れをスムーズにする役割を
担っています。そのため介護施
設や連携する急性期病院など
に出向き、普段から緊密な連
携を取るようになっています。
また、地域の医療機関との情
報共有のために「さまネット」
というシステムを導入し、開
業医の先生方と電子カルテを
共有しています。今後はさら
に、地域全体として患者さん
を診ていくことが重要になる
でしょう。地域の先生方には、
ぜひ当院をどんどん活用して
いただきたいと思います。患
者サポートセンターは医療連
携の窓口でもありますので、
遠慮なくご相談ください。

患者様のご紹介につきましては、患者サポートセンターまでご連絡ください。

座間総合病院 患者サポートセンター TEL 046-251-3700(直通) 神奈川県座間市相武台1-50-1

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

2 東埼玉総合病院

この想いを後世へ繋いでいくために ～東埼玉総合病院で植樹～



小さな実をつけるきんかんの木

東埼玉総合病院では、これまで新型コロナウイルス感染拡大防止のため、職員の体調管理の徹底や入院患者様への面会や付添の制限など、さまざまな対策を行ってきました。

この厳しいコロナの時代を忘れないために、三島秀康病院長の発案で4月25日(土)、病院の敷地内に「かき」「きんかん」「みかん」の3本の木を植樹しました。

「この木が実をつけ収穫をする時に、この未曾有の事態の振り返りができるように。そして将来、『過去に新型コロナウイルスに対し、皆で力を合わせて乗り切ったんだ』ということが思い出せれば」との、三島病院長の想いが込められています。

また、今だからこそ改めて痛感するできごとがありました。東埼玉総合病院の目の前に立てられた、大きな看板。厳しい局面が続く病院職員にとって、地域の方々からの温かいご支援・ご協力が何よりの励みとなります。その想いへの感謝の気持ちを忘れず、今後とも医療従事者としての責務を果たしてまいります。



東埼玉総合病院駐車場の横に立てられた看板

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

3 座間総合病院

『Withコロナ』時代を見据え、感染リスクに正しい知識を ～座間総合病院で「新型コロナウイルス」出張健康講座～

都内を中心にまだまだ感染拡大の兆候がみられる新型コロナウイルス。座間総合病院では、座間市消防本部を会場に8月21日、渡 潤病院長による新型コロナウイルスをテーマにした出張健康講座を開催しました。

座間総合病院ではこれまでも定期的に市民向けの健康講座を行っていましたが、コロナ禍により休止を余儀なくされてきました。今回はソーシャルディスタンスを確保するため、隣接する座間市消防本部の広い会場をお借りし、出張講座として行いました。

さまざまな情報が飛び交い人々の不安が募っていることを受け、病院長自らが感染症の正しい知識を説明するこの企画。座間市の最新の感染状況やウイルスの基本的な知識と感染防止策、さらにWithコロナ時代を見据え、重症化リスクが高いといわれている慢性疾患を抱える人の定期的な外来通

院の重要性や健康管理について講演しました。

当日は近隣地域の方々や消防職員など37人が参加。渡病院長は「受診控えによって慢性疾患が悪化することもあります。コロナに対する正しい知識を持って、必要以上に恐れずに普段どおりの受診をしてください」と呼びかけました。



「JMAグループTOPICS」では、グループ内におけるイベントや取り組み・ニュースなどをご紹介します。

社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス

1 海老名総合病院

2023年春に新棟竣工 増改築工事スタート

海老名総合病院で、いよいよ今秋から新棟建設の工事が始まります。

1983年に開院して築37年となる現在、当院は設備の老朽化だけでなく、度重なる増改築による非効率な配置や施設の狭隘化が課題となっていました。

また、神奈川県東医療圏では海老名駅周辺の開発、県央地域における人口増から、さらなる救急医療のニーズが拡大する

とみられています。これに対応できる機能を整備するため、現在の「新館」の西側にある既存建物と駐車場の土地を利用し、2023年の竣工を目指し新棟の建設が開始されます。

新棟には、1階部分に救命救急センター、病棟など救急医療に必要な機能が集約され、より効率的な医療サービスの提供ができるようになっていきます。また、現在の「本館」にある病棟もすべて新棟へと移動することになります。

工事期間中は、救急・入院・外来機能および海老名メディカ



完成イメージ図

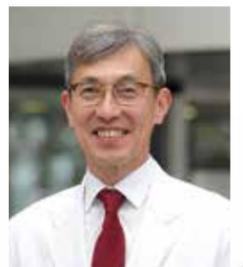


新棟完成イメージ

ルプラザの外来診療は通常通り行われます。「本館」内の診察室、検査室などが随時移動されることもありますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

また駐車場は、新棟建設予定地である本館西側の第1駐車場は閉鎖され、小田急小田原線の高架を挟んだ土地に新たに第5駐車場を設置しました。

県央エリアの医療を支える基幹病院としての使命を果たすべく、地域密着型で、救急機能強化を目的とした増改築工事がついにスタートします。工事期間中は患者様や近隣の皆様にご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



海老名総合病院 病院長 服部 智任

増改築工事とともない患者サポートセンターも移転いたします。
ご来院の際にはお手数ですがご連絡をお願いいたします。

海老名総合病院患者サポートセンター(地域連携課) TEL 046-234-6719(直通)

下田メディカルセンター

視能訓練科～視能訓練士のご紹介～

視機能のスペシャリストながら、意外と知られていない視能訓練士という職業。下田メディカルセンターでも眼科医と連携し、2名の視能訓練士が活躍しています。

視能訓練士(ORT)は、眼科領域における専門技術者として、皆様の目の検査・斜視弱視訓練などを行う職業です。特に下田メディカルセンターでは白内障手術を数多く扱っており

ますので、その術前検査では、目の長さや角膜の状態など様々な機器を使用して測定しています。術後の見え方に影響する重要な検査ですので、正確な数値が得られるよう常に心がけて行っています。

皆様の目が一生見える目でいられるお手伝いをしていくため、これからも努力していきたいと思えます。



お問い合わせ

下田メディカルセンター TEL 0558-25-2525(代) 〒415-0026 静岡県下田市6-4-10

施設のご紹介

医療法人社団 静岡メディカルアライアンス(静岡地区)



下田メディカルセンター

〒415-0026
静岡県下田市6-4-10
TEL 0558-25-2525(代)

下田メディカルセンター附属
みなとクリニック

〒415-0152
静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL 0558-62-0005(代)



しらはまクリニック

〒415-0012
静岡県下田市白浜1528-2
TEL 0558-27-3700(代)

介護老人保健施設
なぎさ園

〒415-0152
静岡県賀茂郡南伊豆町湊674
TEL 0558-62-6800(代)